



「エールプロジェクト」始動！

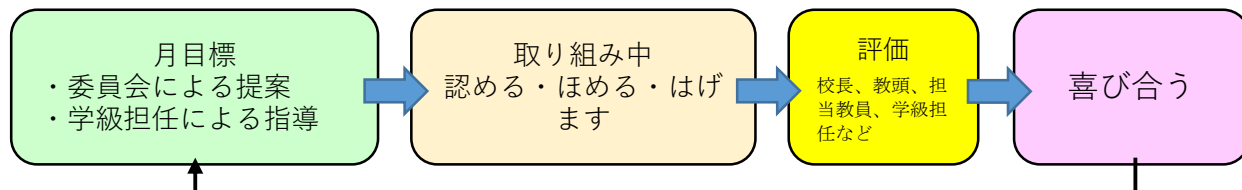


新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、夏の甲子園大会の中止が決定しました。甲子園だけでなく、高校総体等さまざまな大会が中止となり、高校3年生はつらい思いをしていると思います。そんななか、沖縄県内の高校野球部監督有志が全国の高校球児を励まそうと、大会歌「栄冠は君に輝く」を歌いつなが映像を動画投稿サイト「ユーチューブ」に配信したというニュースを見ました。動画の最後には「全国の高校球児にエールを送ります。思いは一つ！夢を持って逆境を乗り越えよう！」と呼びかけています。お世話になった監督の映像を見て、高校生はどう思ったでしょう。

少し前の話になりますが、2007年の夏の甲子園大会は、県立の佐賀北高校が、私立の強豪校を劇的な逆転満塁ホームランで破って優勝した印象深い大会でした。このときの対戦相手のバッテリーは、佐賀北高校を応援する観客の手拍子や声援で球場全体がゆれているのを感じたそうです。

聞くとところによると、佐賀北高校の選手たちは試合中に常に相手チームのプレイを一生けん命ほめていたそうです。相手チーム選手がヒットを打てば「ナイスバッティング！」、相手投手が三振をとれば「ナイスピッチング！」など。だから、佐賀北高校と対戦したチームは佐賀北高校のファンになり、試合のたびに佐賀北高校はそういった応援者を増やしていき、最後には球場をゆらすほどの応援をバックにして優勝するチームになったとか。

本年度、柞田小学校では「エールプロジェクト」に取り組みます。これは、服装やあいさつ、清掃などについて月目標を設定し、各委員会による提案、学級担任による指導を経た後、一か月間活動に取り組み、目標の達成状況を評価するという過程において、児童を「認める」「ほめる」「はげます」ことを教職員がしっかりやろう、そして結果を児童と喜び合おうというものです。



6月は「服装を整えよう」という目標で、風紀委員会を中心に子どもたちが取り組みます。ご家庭においてもがんばる子どもたちにエールをお願いします。

非行防止教室を実施しました。

6月4日（木）、4年生と6年生を対象に、非行防止教室を行いました。毎年、実施されているもので、この日は香川県警察本部少年課から3名の講師をお招きして、児童に万引きの防止やインターネットによる犯罪に巻き込まれないための行動などについて、お話いただきました。



「自分だけは大丈夫」、「これくらいならかまわないだろう」という軽い気持ちから罪を犯したり、犯罪に巻き込まれたりすることがあります。子どもを犯罪から守るためにも、ご家庭でも話題に取り上げていただければ幸いです。

「ほめる」ということについて

心理学者のアドラーは、「ほめる」ということについて、「教師が児童を」「親が子を」というような縦の関係性を前提とした声かけの効果よりも、上下関係ではなく対等の関係、横の関係による声かけの方が効果が高いことを指摘しています。

具体的には、子どもが家の手伝いをしたときなどの場面で、「やったな。すごいぞ。」と声かけするよりも、「ありがとう。助かったよ。」と声かけした方が、次の手伝いの意欲づけになるということです。

なるほどと考えさせられますが、あまり考えすぎるのもどうかと思いますので、子どもが家族のために自分で考えてとった行動には、タイミングを逃すことなく、感謝の気持ちを言葉で伝えてください。

